



(吉野山)

I期は掘立柱東西塀SA
○一とその北雨落溝SD○
二で、SA○一は東区で二
間分、西区で一間分を確認

奈良・橘寺

1 所在地

奈良県高市郡明日香村橘

2 調査期間

一九八六年（昭61）九月～一月

3 発掘機関

奈良国立文化財研究所飛鳥藤原宮跡発掘調査部

4 調査担当者

岡田英男

5 遺跡の種類

寺院跡

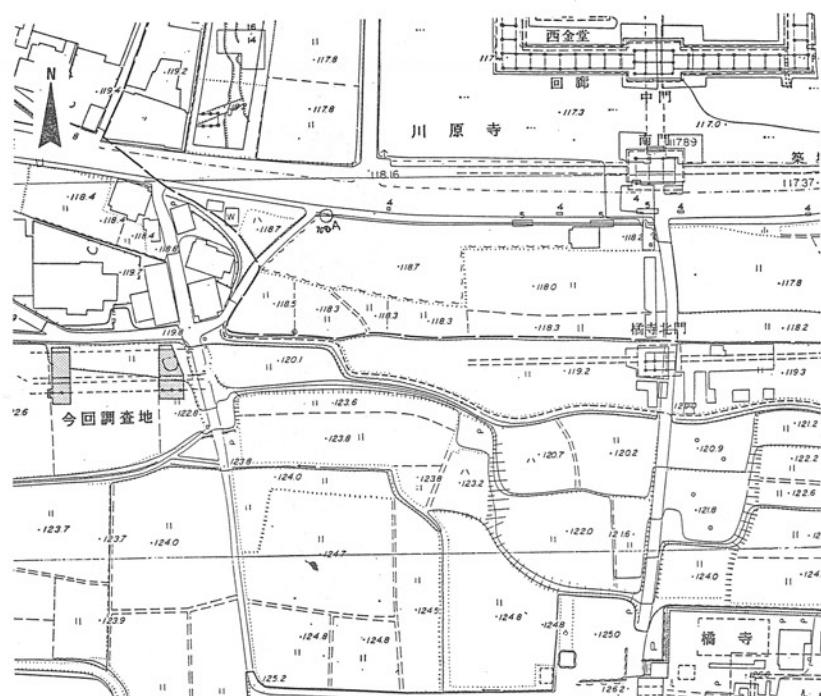
6 遺跡の年代

七世紀～一五世紀

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

本調査地は橘寺の北西約一七〇mの地点で、橘寺とその北に位置する川原寺との旧境界と考えられる里道の南側である。調査区は東西二カ所に分れ、面積は一六〇²mである。遺構は大別してI期（七世紀後半）・II期（八世紀中頃）・III期（中世）に区分できる。

り溝である。II期は土壙SK○五がある。東西四・五m、南北三・



橘寺調査位置図 (1:2000)

五m、深さ一・五mで、造営工事の廃材や塵芥を投棄したゴミ捨て穴と推定される。この土壙やⅡ期整地層から出土した瓦は川原寺創

建瓦を含む七世紀後半のもの、土器は藤原宮期から奈良時代中頃のものである。土壙中から木筒が九点出土した。Ⅲ期はSA○一から

五m北に設けられた築地壙SA○三とその北雨落溝SD○四、土壙SK一〇等である。SA○三は基底部幅三m、残存高約〇・五mで、

築地本体は削平されていた。SD○四は築地の北二mにあり、深さ一・二m、復原幅二mで、鎌倉時代～室町時代初期の土器・瓦が大量に出土した。この築地は以前に確認している橘寺北限の築地壙の西延長部で、今回北門心から一五四m分確認したことになり、西限はさらに西に延びる。築地基底部出土の遺物からみて、前身の築地があつたとしても八世紀中頃以前にはさかのぼりえない。それ以前は南の東西壙が北限施設であった可能性が生じてくる。これらの壙や築地は川原寺の伽藍方位に一致し、遺物の上でも同寺と共通するものが多いから、古代においては橘寺の北限域は、川原寺の強い影響下にあつたらしい。

8 木筒の釦文・内容

(1)

〔香カ〕
・「▽□川郡□□鄉□□□□」

・「▽□十一□」

158×21×3 032

(2) ×魚煮一連上

(92)×15×2 059

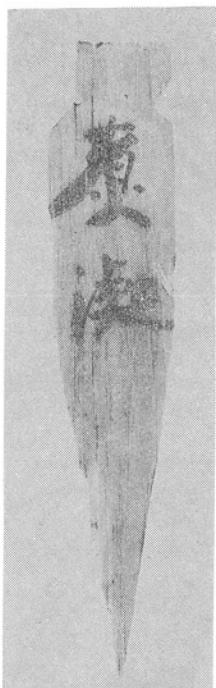
(3) 「▽煮凝」

114×23×2 033

9 関係文献

奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査出土木筒概報(八)』
(一九八七年)
同『飛鳥・藤原宮発掘調査概報一七』(一九八七年)

(加藤 優)



木筒(3)